

教師用 デフリンピック学習指導案

1. 授業テーマ、概要

- テーマ：デフスポーツや手話を通して、共生社会について考えよう！
- 位置づけ：「総合的な学習の時間」を活用
- 対象学年：小学校3年生～6年生、中学生（1クラス）
- 学習時間：45～50分

2. 目標

- デフリンピックやデフスポーツについて興味・関心を持ち、東京2025デフリンピックやデフアスリートを応援したくなる
- 開催地域のデフアスリートやろう者と交流し、自分の回りにいる多様な人の存在に気づき、バリアフリーや共生社会について考える
- きこえない疑似体験等を通してろう者を取り巻くバリアや何に困っているのかを知り、手話言語に触れ、コミュニケーションへの意欲を高める

3. 教材、準備物

- デフリンピック紹介映像
- デフリンピック・手話言語学習教材
- ホワイトボード・黒板
- 聴覚障害者用日常生活機器（屋内フラッシュ機器、振動式目覚まし時計、振動腕時計等）

4. 学習内容、ねらい

時間	学習活動	ねらい	準備物等
導入（5分）	○デフリンピック紹介映像を視聴し、デフリンピックの概要を理解する ○競技シーンを見て、興味・関心を高める	○なぜ、デフリンピックがあるのかを考えさせる ○日本で今まで開催されたことがあるか？を考えさせる	○デフリンピック紹介映像 ○タブレットあるいはTV
ワーク（10分）	例①デフリンピックやデフスポーツの特徴について書き、発表する 例②きこえない人が競技をする上でハンデとなるものについて書き、発表する 例③きこえない人が普段の生活で困ることについて書き、発表する	例①デフリンピックやデフスポーツの特徴を考える 例②デフリンピックでは、きこえない人が参加また競技をする上で、ハンデとなるものをどのように解消しているか考えさせる 例③きこえない人が困っていること知り、自分たちに何ができるか考えさせる	○ワークシート ※どれか1つを選択

デフリンピック 教育ワークショップ型プログラム

<p>体験（25～30分）</p>	<p>例①デフリンピックや聴覚障害者用日常生活機器に関するクイズで知識を深める</p> <p>例②日本の手話や国際手話の簡単な挨拶や自己紹介を学ぶ</p> <p>例③ジェスチャーゲームや手話ゲームを通して、コミュニケーションを楽しむ</p>	<p>例①きこえない人が競技だけではなく、日常生活の場面でハンデとなるものにも気づかせる</p> <p>例②手話に興味を持ち、これからも学んでみたいという意欲を高める</p> <p>例③コミュニケーションにはいろいろな手段があることを学び、きこえない人とのコミュニケーションバリアの推進を図る</p>	<p>○デフリンピック・手話言語学習教材</p> <p>○聴覚障害者用日常生活機器</p>
<p>まとめ（5分）</p>	<p>例①学習内容を振り返り、感想を発表する</p> <p>例②東京 2025 デフリンピックについて話す</p>	<p>例①②東京 2025 デフリンピックに関心を持たせ、応援したいという気持ちを持たせる</p> <p>きこえない人の困りごとと、それをどのように解決していくかをまとめ、共に楽しく生活するために自分たちにできることについて考えるきっかけを作る。</p>	

5. 指導上の工夫

- ろう者やデフアスリートやろう者を講師として招き、交流する機会を設けてください
- 映像資料や動画はインターネット上の動画サイトや全日本ろうあ連盟スポーツ委員会や東京2025デフリンピック大会のホームページから入手、活用できます
- 聴覚障害者用日常生活機器等は、地域の聴覚障害者情報提供施設やろう当事者団体の協力を得て、借り出して活用してください
- クイズ問題は、デフリンピックに関する知識を問うものや、情報保障機器に関するものなど、多様な内容を工夫してください

6. その他

- 本指導案は、あくまでも一例です。地域や学級の状況や児童生徒の興味に合わせて、講師と先生の間で内容や時間を相談し、調整してください
- デフリンピックやデフスポーツに関する情報は、全日本ろうあ連盟スポーツ委員会や東京2025デフリンピック大会のホームページで詳しく確認できます
- この学習を通して、子どもたちがデフリンピックやデフスポーツ、きこえないことや手話言語への理解を深め、共生社会について考えるきっかけとなることを期待しています

教師用 デフリンピック学習指導ガイド

1. 導入 (5分)

- デフリンピック紹介映像は、子どもたちの興味を引くような内容を選ぶ
- 映像視聴後、子どもたちに感想や意見を聞くと、学習への意欲を高められる

2. ワーク (10分)

ワークを行うにあたり、子どもたちの考える力を補助したり引き出すために、以下のポイントを工夫してください。

また、3種類のワークシートを用意していますが、学習内容によりどれか1つを選択して使用する形で構いません。

1. デフリンピックってどんな大会？

- デフリンピックは、きこえない人が参加するオリンピックのような国際的なスポーツ大会
- 1924年にフランスで第1回目のデフリンピックが開催されました
- デフリンピックは夏と冬があり、それぞれ4年に1回開催されます
- デフリンピックには、様々な競技（21競技）があります

2. デフリンピックやデフスポーツの特徴を書いてみよう！

- 陸上や水泳ではスターターのピストル（音）の代わりに、スタートランプを使います
- サッカー等では、審判の笛の代わりにフラッグを振って、選手に知らせます
- デフリンピックでは、国際手話が使われます
- デフ競技団体に所属する手話通訳者は、監督やコーチ、選手間のコミュニケーションを仲立ちする大切なお仕事をしています
- バレーボールやサッカー、バスケット等の団体競技では、競技中にチームのきこえない選手同士がパス出しや指示等の声掛けがきこえないため、声の代わりにサインやアイコンタクト等で工夫をして伝え合っています

3. きこえない人がスポーツをするとき、困ることを書いてみよう！

- スポーツをする上では打球音やチームメイトの声掛け等が重要ですが、きこえない選手はそれらがきこえないので大変です
- 監督やコーチの掛け声や話がきこえないので、手話通訳や筆談が必要になります

4. きこえない人がふだんの生活で困ることを考えてみよう！

- テレビやラジオの音声がきこえないため、内容を楽しむことができなかったり、災害時など緊急で知りたい内容が届きません
- 周囲の人の会話がきこえず、周りでどんな話をしているか、どんなことが行われているかが、わかりません
- ドアチャイムなどの音がきこえないので、誰かが来てもすぐに対応できません

デフリンピック 教育ワークショップ型プログラム

- 緊急時のアナウンスがきこえないので、素早く行動に移せません（逃げ遅れてしまう）
- きこえる人と話すとき、相手が手話や筆談ができない場合、コミュニケーションが難しい

3. 体験 (25分～30分)

- 学習教材は子どもたちの学年に合わせて選ぶ
- 手話クイズ問題は、学校やスポーツでよく使う単語や地域の名所等の身近な単語を選び、想像しやすくし、すべての子どもが楽しめるようにする
- ジェスチャーゲームや手話ゲームは、子どもたちが積極的に参加できるような内容にする
- 聴覚障害者用日常生活機器等は実物を借り、実際にデモンストレーションをすることで、子どもたちの関心と理解を深めるようにする
- 日本の手話や国際手話の簡単な挨拶や自己紹介を使い、ろう者と実際にコミュニケーションをすることで、手話言語でつながる楽しみを得られるようにする

4. まとめ (5分)

- 学習内容を振り返る際は、子どもたちの意見を積極的に聞き、共有する
 - 東京 2025 デフリンピックが開催されることや、もし地域にデフアスリートがいる場合は紹介し、大会への関心を高め応援への気運醸成につなげる
 - デフリンピックやデフスポーツへの応援方法について考える活動は、子どもたちの創造性を発揮できるような内容にする
- ※東京 2025 デフリンピックやきこえない選手を応援する方向は以下が考えられます
- ・観戦に行き、日本のデフアスリートを応援する
 - ・日本のデフアスリートで有名な選手やメダルを取った選手を調べる
 - ・自分の地域（県または市町村）に身近なデフアスリートがいるかどうか調べる
 - ・デフアスリートへ応援のメッセージを書くまたは手話で「頑張って」という動画を送る

その他

きこえない人は日常生活でも、映画館や劇場などの文化施設で、字幕や手話通訳がないため、作品を楽しむことができません。また、スポーツ観戦やイベント参加なども、きこえる人と一緒に楽しむことが難しいのです。

子どもたち一人一人が、デフリンピックやデフスポーツへの理解を深めると共に、きこえない人の困りごとを知り、どのように解決していくか、また共生社会について考える授業を実現してください。

より良くまた効果的な授業となるよう、事前に講師や手話通訳者と打ち合わせを行う時間を十分に設けてください。

